

藤沢周平の作品に登場する果物と野菜をはじめとする食べ物

平 智・村岡 翼・渡邊奈穂子・木村正勝・小林恵美・奥山史洋

山形大学農学部

e-mail : staira@tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp

Food, such as Fruits and Vegetables, Appeared in Shuhei Fujisawa's Works

Satoshi TAIRA, Tsubasa MURAOKA, Naoko WATANABE, Masakatsu KIMURA,
Megumi KOBAYASHI and Fumihiko OKUYAMA

Faculty of Agriculture, Yamagata University

Keywords : 藤沢周平全集, 食文化, 山形県庄内地方, 在来作物

私たちの食生活は地域によって異なり、時代とともに変化している。ある時代にその地域の人々がどのような食べ物を食べていたかについては、その時代に書かれた物語や小説などに反映されていることも多いと考えられる。著者らはこれまでに、各時代の生活習慣や食文化などが色濃く投影されていると考えられる日本民話やグリム童話ならびにアンデルセン童話などに登場する食べ物について、果物と野菜を中心に考察してきた(平ら, 2009)。小説の世界にもこれと同じように、作者が生まれ育った時代や生活環境が作品に反映されている可能性があるだろう。

近年人気が高まっている藤沢周平の作品には生まれ故郷の食べ物がしばしば登場することが知られているが、全作品中にどのくらいの種類の食べ物がどれくらいの頻度で登場するのだろうか。また、それらは同氏の作品中でどのような役割を果たしているのだろうか。

本資料は、藤沢周平の作品に登場する果実や野菜をはじめとする食べ物を抽出調査して、若干の考察を加えたものである。

調査方法

『藤沢周平全集全 25 巻』(文藝春秋社, 1992 ~ 2002) に収録されている全 206 作品を対象として、まずそれらに登場するすべての食べ物を拾い出し、『五訂食品成分表』(香川, 2002)に基づいて分類した。次に、作品を藤沢の生まれ故郷である山形県庄内地方を舞台とした作品群(56 作品)とそれ以外の作品群(150 作品)に大別し、それぞれの作品群に登場する食べ物の種類数と登場回数を数えた。また、食べ物のうち、とくに果物と野菜については、登場した食べ物の地域性や時代背景

についても考察した。

調査結果と考察

1. 食べ物の種類と登場回数

藤沢周平全作品に登場する食べ物の種類数と延べ登場回数は、それぞれ 733 種類で 6078 回であった。庄内地方を舞台とした作品群には 434 種類が 2476 回、庄内地方以外を舞台とした作品群には 482 種類が 3602 回登場した(第 1 表)。また、全作品あるいは作品群ごとに登場する食べ物の種類数と登場回数をそれぞれの作品数で割り、1 作品あたりに登場する種類数と登場回数を算出したところ、全作品では 3.6 種類で 29.5 回、庄内を舞台とした作品群では 7.8 種類で 44.2 回、庄内以外を舞台とした作品群では 3.2 種類で 24.0 回となり、庄内地方を舞台とする作品群で種類、登場回数ともかなり多いことがわかった。

次に、全 206 作品に登場したすべての食べ物を『五訂食品成分表』に従って、1. 穀類, 2. いも類およびんぶん類, 3. 砂糖および甘味料, 4. 豆類, 5. 種実類, 6. 野菜類, 7. 果実類, 8. きのこと類, 9. 藻類, 10. 魚介類, 11. 肉類, 12. 卵類, 13. 乳類, 14. 油脂類, 15. 菓子類, 16. 嗜好飲料類, 17. 調味料および香辛料類および 18. 調味加工食品類に加え、この基準によって分類できなかったものを 19. その他とし、19 種類に分類した。

分類の結果、全作品に登場する食べ物のうち、最も登場回数が多かったのは嗜好飲料類の 2672 回で、次いで穀類の 924 回、以下、野菜類の 511 回、魚介類の 509 回、菓子類の 331 回、果実類の 256 回の順であった(第 1 表)。庄内地方を舞台とした作品群とそれ以外の作品群に登場する食べ物の登場回数も全作品の場合とはほぼ同様の傾向を示していた。また、登場回数が最も多かった嗜好飲料類では、酒と茶とで全体の約 9 割を占めていた。

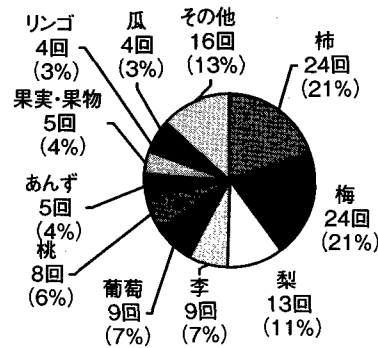
2010 年 12 月 9 日受付。

本資料・報告の内容の概要は、人間・植物関係学会 2009 年大会において報告した。

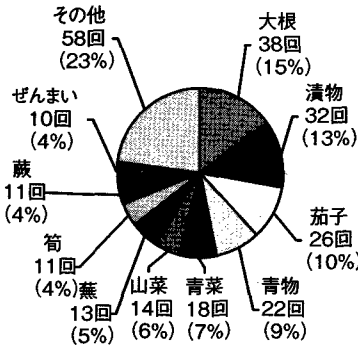
第1表. 藤沢周平作品に登場する食べ物の種類数と登場回数.

食べ物の種類 ²	全 206 作品		庄内地方を舞台とした作品 (56 作品)		庄内地方以外を舞台とした作品 (150 作品)	
	種類数	登場回数	種類数	登場回数	種類数	登場回数
1 穀類	78	924	46	355	70	569
2 砂糖及び甘味料類	8	16	4	6	8	10
3 いも及びでんぷん類	24	76	13	34	16	42
4 豆類	32	149	21	57	22	92
5 種実類	10	75	6	42	10	33
6 野菜類	136	511	71	255	85	256
7 果実類	40	256	30	121	23	135
8 きのこと類	8	11	3	4	5	7
9 藻類	10	16	5	5	7	11
10 魚介類	158	509	95	255	106	254
11 肉類	32	44	19	23	15	21
12 卵類	3	9	1	1	3	8
13 乳類	4	24	4	7	2	17
14 油脂類	3	5	2	2	1	3
15 菓子類	52	331	30	137	24	194
16 嗜好飲料類	58	2672	38	983	38	1689
17 調味料及び香辛料類	16	122	10	54	9	68
18 調理加工食品類	2	2	1	1	1	1
19 その他 ³	59	326	35	134	37	192
計	733	6078	434	2476	482	3602

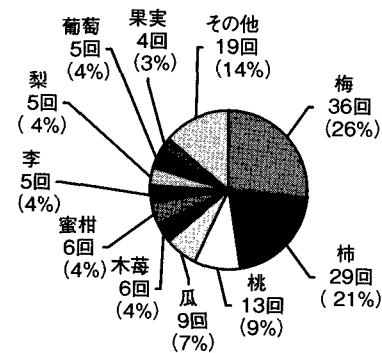
² 食べ物の分類は「五訂食品成分表」(香川, 2002)に基づく。
³ 「五訂食品成分表」によって分類できなかったもの。



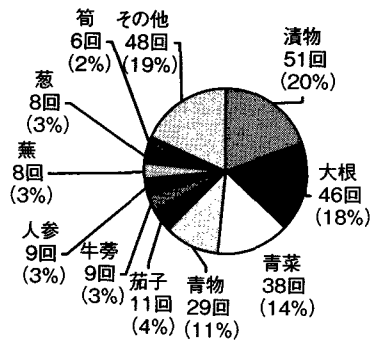
第1図. 庄内地方を舞台とした作品(56作品)に登場する果実類の登場回数とその割合.



第3図. 庄内地方を舞台とした作品(56作品)に登場する野菜類の登場回数とその割合.



第2図. 庄内地方以外(150作品)を舞台とした作品に登場する果実類の登場回数とその割合.



第4図. 庄内地方以外を舞台(150作品)とした作品に登場する野菜類の登場回数とその割合.

種類は、魚介類が158種類と最も多く、次いで野菜類の136種類であった。以下、穀類の78種類、嗜好飲料類の58種類、菓子類の52種類、果実類の40種類の順であった。このように、穀類、魚介類および野菜類の種類数や登場回数が多いのは、藤沢が描く物語の多くが肉類の消費がまだ少ない時代の食生活を反映しているからであると考えられた。さらに魚介類の種類数が多い理由の一つとして、同氏の出身地である山形県庄内地方をはじめ日本の多くの地域が海に面し、海産物が豊富に獲れることを反映していることがあげられると思われた。

2. 作品に登場する果物と野菜

果実類と野菜類の登場回数はあまり多くなかったが、両者について少し詳しく調べてみると、庄内地方を舞台とした作品群に登場する果実類の種類別登場回数が最も多かったのは柿と梅の24回、次いで梨の13回、以下、李と葡萄の9回、桃の8回の順であった(第1図)。これに対して、庄内地方以外を舞台とした作品群では梅が36回と最も多く、次いで柿の29回、以下、桃の13回、瓜の9回、木苺と蜜柑がともに6回であった(第2図)。

このように庄内地方を舞台とした作品群にしばしば登場した柿や梅は、他の作品にも多く登場していることがわかる。また、果実類は「梅の木がある」、「桃の花が咲く」というように風景の一部として登場する場面が多かった。または、「蜜柑色の空」、「白桃のような白い脚」のような比喻表現に用いられることも多く、食材として登場する場合はむしろ少なかった。

庄内地方を舞台とした作品群に登場する野菜類の種類別登場回数は、大根が38回と最も多く、それに続いて、漬物の32回、茄子の26回、青物の22回、青

菜の18回であった(第3図)。庄内地方以外を舞台とした作品群には漬物が51回と最も多く登場した。以下、大根の46回、青菜の38回、青物の29回、茄子の11回の順であった(第4図)。

野菜類は「茄子畑」のように風景の一部として登場する場合もあったが、食材として登場する場合が大半を占めていた。なお、庄内地方を舞台とした作品群にしばしば登場した果実類の「柿」や「梅」は庄内地方以外を舞台とした作品群にもかなり頻繁に登場したのに対して、野菜類では、庄内地方を舞台とした作品群に同地方の特産の在来野菜やそれを使った郷土料理がしばしば登場した。これらの野菜は庄内地方以外を舞台とした作品群にはほとんど登場しなかった。なお、藤沢のエッセイ作品(13作品)にも庄内地方を舞台とした作品群にしばしば登場した果実類や野菜類が全体の2割程度登場していた。

以上のように、藤沢の作品に登場する食べ物の種類と登場回数は、庄内地方を舞台とした作品群の方が庄内地方以外を舞台とした作品群に比べて約2倍も多いことがわかった。このことは、著者の生まれ故郷の食材や食文化が作品に影響を及ぼしている一つの例であると考えられた。

引用文献

- 香川芳子. 2002. 五訂食品成分表. 女子栄養大学出版部. 東京.
- 平 智・川野美保・山崎雪恵・小岩井 優・宮沢喜一. 2009. 日本民話やグリムおよびアンデルセン童話に登場する果実や野菜をはじめとする食物について. 農業および園芸 84:715-722.